



㊦体から白い煙のような精子を出す㊦海底の砂などを食べるマナマコ。普段は海底をゆっくり動く

マナマコ

学名 *Apostichopus japonicus*

分 布 北西太平洋沿岸の浅い海域。
日本では北海道から種子島辺り
までに生息し、鹿児島県は南限
にあたる

食べ物 海底の砂や泥に含まれる有機物
特徴 円筒形をした体の前の端から
触手を出し、海底にある有機
物を食べている。高水温が苦手
なため、夏場は休眠状態になり、
岩の下やすきまに入り込み
小さくなっている。鹿児島では
12月くらいに海底に姿を見せ
始める。その色や特徴の違い
から、「アカ・アオ・クロ」の
3つの型があるとされていた
が、近年は「アカ」と「アオ・
クロ」は別種だと考えられて
いる

年に1度、立ち上がる

かごしま水族館のタッチプ
ールでマナマコを触ったこと
がありますか？ マナコは
海底に寝転んでいるだけと思
われがちですが、今日は驚
きの一面を紹介します。

それが見られるのは、鹿児
島では春先です。普段は海底
に横たわっているマナマコ
が、ゆっくりと体を起こし
ます。ちょうど、蛇が鎌首を
もたげたような格好です。1

匹だけではありません。そこ
らじゅうのマナマコたちが同
じような動きを見せます。
そのうち、ゆっくりと、時
には激しく、起こした体を
前後左右に振り回し始めま
す。ロックコンサートで観
客がリズムのつて頭を振
る「ヘッドバンギング」のよう
です。すると、それぞれの体

の上の部分から、白い糸のよ
うな“煙”が立ち上ります。
少し遅れて、別のマナマコ
たちが、今度はだいたい色の
“煙”を出しはじめました。
よく見ると、だいたい色の無
数の小さな点です。こちらは
雌が放出した卵で、先ほどの
白いものは雄の精子。マナ
マコたちの産卵行動だったの
です。

海中に放出された卵が
受精し、やがて1ミにも満た
ない赤ちゃんが誕生します。
赤ちゃんたちは潮に乗って
拡散し、約3週間後には新
しい場所で生活を始めます。

水槽で静かに砂をはんでい
るマナマコを見つけたら、1
年に1度、子孫を残すために
立ち上がり、一生懸命に体
を振り回す姿を想像してく
ださい。(展示課魚類展示係
・ 柏木由香利)

おもしろ

生き物図鑑

かごしま水族館から